

ほとけの 混和会だより

平成二十七年一月

東光院
仏の混和会

第109号

謹賀新年

お健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます
皆様のご多幸を
心よりお祈りいたします
平成二十七年 元旦



檀信徒各位様に於かれましては、日頃の仏道精進、誠に有りがたく謹み御礼申し上げます。
本年度も、皆様のご指導、又御協力を仰ぎながら、仏道精進の元に、共に集う環境、「サンガ」の構築に勤めて参りたいと存じます。
仏道を精進すると言う事は、「慈悲心」一切見返りを求めない無条件の優しさを会得する事で、この「慈愛心」

に触れた時、大きな安らぎと真の幸が得られます。
しかしこの幸は、いくら待っていても、やって来てはくれません。この幸を得るには、先ず他人を幸せにすることがもつとも近道なのです。
最澄様は「己を忘れて他を利するは慈悲の極み也」と諭して下さいました。
本年度も、共に他の幸を念じ真の幸が得られるよう勤めて参りたいと存じます。合掌

私達は、何の為に生きているのだろうか

No. 3

人は何の為に生きているのかと、あれこれ自問自答しながら模索してみると、究極のところ生きることの目的などと言うものは存在しないのかも知れません。
太陽は何のために輝いているのか、草花は何のために生きているのか、と同じような事で答えようがありません。
世の人々は、地位や、名誉や、財産を得る為とか家族を養う為、などと理論づけるけれど、これとて誠に不確定な者です。
しかし、人間は誠に弱い生き物です。生きる事の目的も指針も無く漠然と生きていったのでは迷いの境地をさま迷ってしまいます。
そこであえて目的を定めるとしたならば「仏に成る為に生きて居る」と言う事が言えるかと思いません。仏に成ると行っても、死ぬ為に生きなさいと言うことではありません。仏とは「ブツダ」の事で人間として完成された境地に到った人で、真理に目覚めた人です。
この真理とは、花はミツバチによって命が伝えられる事を知っています。ですから花はミツバチに蜜を惜しまず施し、共に生かさせて頂いて居るのです。牛や豚、鳥も魚も、森の木々も草花も、みな同じように命を施したり、施されたり、全て大自然の営みの中で、

様々な命は、網の目の如くからみ合いい脈々と命が伝えられながら進化しております。この大自然の営み、これが真理であります。
それは、私達人類も例外ではありません。人間だからと言って、この真理に外れて生きる事は出来ないのです。



抱擁し、分け隔て無く、万人の幸を願います。

営み、この真理に身を委ね、あるがままに生きる事の出来る人、これが仏であり「ブツダ」なのです。
しかし私達人間は、なかなか「ブツダ」のように、生きられません。
せめて、生きる事の指針とするところは、「ブツダ」の境地、と定め歩んで参りたい者で御座います。
その「ブツダ」の境地を目指す人を菩薩と言っております。
仏の境地を目指し、菩薩としての御心を次世代に伝えていく事に寄って、私達が何の為に生きて居るのがが見えてくる者と思われれます。
十数年前、「人は、だれかを幸せにする為に生きて居る」と、ある人よりお言葉を頂きました。
この言葉に寄って、私自身生きる事の指針と、大きな喜びを得る事が出来ました。今後も精進して参りたいと存じます。合掌

ねーねーお坊さん
お坊さんは、昨年より「サンガ」を作る事がお坊さんの使命のように言っているけれど、具体的に何をしようとしているのですか？



そうじゃない
これを具体的に一言で言う事は大変難しいことなんじゃが、あえて一言で言うくと、みんなと一緒に生きて行く環境を造ろうと思ってるのじゃよ。
一人で生きて行くのはとても不安じゃろ、それよりお互いに他の幸を念じ合える環境が出来ればとても素晴らしい「サンガ」になることと思うよ。
昔から、みんな自分の幸せだけを願って居たから、自我の境地にさまよい、苦しみを招いたり、争ったりしていたのじゃよ。
具体的に何をするかと言うと、先ず一つ目は、地域の人々や、ご縁の元に生きる様々な人々と共に農産物の栽培や販売が出来ればと思ってるのじゃよ。農業は生きる事の原点だからね。
二つ目は、命を伝える喜びが見いだせないかと思ってるのじゃよ。たとえば、絶えかけている伝統工芸師の元に、継承する弟子が現れたとする。すると師匠は命がけで技術を伝え、後は頼んだぞと、命を伝える喜びに満たされると思うのじゃよ。これと



お魚さん 命をありがとう
牛さん 命をありがとう
大根さん 命をありがとう
みんなの命が無にならないよう
大事に生かさせて頂きます。

『節分会』 二月三日(火曜) 午後三時半より

招福を祈念して、豆まきを致します。12才、24才、36才、48才、60才、72才、84才、の年男、年女の皆さん、徳を積んで福を招いてみましょう。豆まきをして下さる方を募集致します。詳細は 東光院 電話 0476(46)2471まで